

## 優秀賞

# わたしの家族はビール一家

小豆島町立苗羽小学校四年 中田 夏帆

わたしのおとんは、ビール屋さんをしています。ビールをつくってお客さんにはん売しています。名前は「まめまめびーる」です。

「小豆島の「豆」という字をひと文字かりたのよ。そして、まめまめしく、つまり一生けん命、ちゅう実にビールをつくろうと名付けたのよ。」

と、ママが教えてくれました。その名前のように、おとんはよく働きます。いつも夜中の三時すぎに起き、仕こみを始めます。うちのビールは、二十種類もあり、それぞれにこせいがあります。だからこそ、ていねいに世話をしないといけないのだそうです。ビールをつくる工場は、三つの部屋に分かれています。発こうし終わったビールを

ほ管するタンク室、そのビールをビンにつめるビンづめ室、後は冷ぞう室です。そこに入ると、ビールのおいではなく、森の中のおいがします。おとんは、いつもそこで一人で作業をしています。

そんなおとんに、  
「なんで、ビールをつくろうと思ったん？」

と、聞いてみると、おとんは、  
「だって、自分でつくったら、ただでビールが飲めるやんか。」  
と言って、うれしそうな顔をします。おとんは、本当にビールが好きなんだなと思います。

ふだんのおとんは、おもしろいです。しよっちゅうボケてくるので、わたし

と弟のかん太ろうがツッコみます。すると、おとんのツッコみ返しがあります。

「みんなアホやな。」  
と、おとんが言うのと、本当にわたしの家族はアホな家族だな、と思います。わたしの家族はこうやって、いつももり上がります。

ママは、料理の天才です。ビールに合うおつまみを作って、お店でも売っています。マメコンカンや燻製ポテチなど、おいしいものがたくさんあります。中でも、ママのつくるとりのからあげは最高です。食べたなら、口の中にジュワーツとあぶらが広がり、めっちゃくちゃおいしいです。何回食べてもあきない味です。お客さんも、ママのごはんはおいしいと言ってくれます。それを聞くと、わたしまでうれしくなってきました。おとんは、

「ビールとからあげをいっしょに食べたらおいしいけど、体にはよくないなあ。」

と言いながら、むしゃむしゃと食べているので、きつとおいしすぎてやめられないんだと思います。

わたしの家族は、今から七年前に大阪の枚方から小豆島に引っ越してきました。わたしはまだ、二才でした。自然が多く、山と海で囲まれているところが気に入ったそうです。今は家族みんな楽しくすごし、おいしい料理が食べれて、とても幸せです。

ところが、一年前に、もつとうれしいことがありました。それは、おとんのつくったビールが、インターナショナルビアカップで、金賞をもらったのです。しかも、「しろまめまめ」と「鳴

あはっ  
呼発酵」の二つも！その結果を知った

おとんは、家のドアを開けると同時に、「金賞、とったぞ！」

と、にこにこ顔でスマートフォンを見せつけました。それを見たママは、「ホントに！」

と、にこにこしながら、いつもより高い声で聞き返していました。かん太ろ

うは、

「おとん、おめでどう！」

と、おとんにうれしそうに言いました。みんな笑顔で、わが家最高の一日になりました。おとんの努力が実って、本当によかったと思います。わたしは、おとんがつくったビールが、日本中に、そして世界に広がって有名になったらいいのと思いました。だから、

「これから、世界中で飲んでももらえたらええなあ。」

と、おとんに言うとおとんからは意外な答えが返ってきました。

「夏帆、おとんはなあ、これから工場を大きくしたいけど、世界には売りに出たくないねん。たくさんの人に飲んでもらいたいけど、小豆島に来て、ここで飲んでもらいたいねん。ここで飲むからこそ、うまいビールをつくりたいねん。」

わたしは、びっくりしました。おとんが一番したかったことは、そういうことなのかと思いました。

うちのビールは、毎週土、日曜日に、坂手港のそばで、テントを開いてお客

さんに飲んでもらっています。お客さんは、いつも笑顔で飲んでいきます。おとんも笑顔でお客さんとビールを飲んでいきます。わたしは、それを見ているのが大好きです。今は、ビールをついだし、レジを打ったりしかできないけど、しょう来は、おとんがいつまでも小豆島でビールをつくって、たくさんの人に笑顔で飲んでもらえるよう、できることをふやして、ささえたいけるようになりたいです。